

## 情報科学部

## I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2018年度大学評価結果総評】(参考)

情報科学部は、技術的素養を担保する基盤教育と社会の変容に順応できる先端教育を組み合わせた教育プログラムを運用し当該分野での大学としての使命を果たすための教員スタッフを構成している。日々進化する情報科学の人材資源を育成する仕組みが巧みに多角的に組み込まれている。履修コース間を横断する履修、プレゼンテーションやPBLを重視した授業科目によるアクティブラーニングの促進、ERP科目・GBCのイングリッシュコーナー・TOEICなどを導入したグローバル素養の育成、学び直し科目、前提科目など、カリキュラムには多彩で創意工夫に満ちた取り組みが見られ、高い教育効果を発現することが期待される。学生への修学支援は多角的・重層的であり、GBCの管理型オフィスアワーやアシスタント学生(SA)と教員との連携による学生への支援体制は他部局には見られない独創性を有し、その取り組みが高く評価される。教育・学習成果の計測は適切かつ確実であり、ポートフォリオを利用した学習成果の見える化などは、欧米の大学システムに学ぶ教学管理手法として今後の主流になり得る取り組みである。教育プログラムを支える教員組織の人事管理は適切になされ、各分野を堅実に支える組織構造となっている。先端科学分野特有の事情ではあるが、育成しようとする人材像は社会情勢とともに変動するため、それに追従できる学生受け入れ体制を柔軟かつ細やかに見直す体制が確立されている。

一方で、知識体系が短時間スケールで変動する科学分野の宿命として中期目標の設定が困難とは思われるが、分野の特質を反映した中期目標と年次進行計画を適切に策定することが望まれる。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

技術分野の推移は速いが、2015年度のカリキュラム改革で専門基礎分野の構成を整理した上で、コース化により専門的な技術領域の変化への適応をしやすい形態を構成した。この観点から、中期および年次目標では、専門基礎部分の達成度を測り改善していくための具体的な取り組みを掲げていく。また、コース化した専門部分のカリキュラムに対して、コース毎の特性をみた達成度評価とカリキュラムの小規模見直しといった、技術の推移への適応を可能とする定常的な仕組み作りを進めている。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

情報科学部では、2015年度カリキュラム改革の軸とした基礎分野の整理に続き、今回は専門分野を軸とした整理により技術推移の速い情報分野に適応させる取り組みを行ったことは評価できる。専門分野を(1)コンピュータ基礎、(2)情報システム、(3)メディア科学の3つのコースに整理し、コース毎の特性に合わせた評価指標を設け、その評価結果をもとにカリキュラムを小規模かつタイムリーに見直すという仕組みを作り、最新技術動向に即応可能としたことは評価でき今後に期待する。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2019年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S  A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2015年度カリキュラムから、より基礎教育に重点を置いた教育課程になっている。学士力を担保するために、座学による講義に加えて演習科目を多く配置し、問題を解きながら学べる科目構成を導入した。また、実験をとおしてグループとしての問題解決方法の指導を行う数理実験において、レポートに対する教員による指導の仕組みを導入することで、技術的な文章の作成力の育成をはかっている。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目
- ・カリキュラムツリー (<https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/>)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・カリキュラムマップ ( <a href="https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/">https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/</a> )	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>情報処理学会等の情報系の学会が提示している情報科学分野の高等教育のためのカリキュラム標準によりコアカリキュラムを設計し、情報科学分野の最新の動向に対応した改訂を数年ごとに行っている。2015年度新入生から導入した新カリキュラムでは、情報科学分野の知識体系をコースとして明確化しており、昨年度から新カリキュラムによる卒業生がでた。順次的・体系的な学修を明確にするために、コンピューター基礎、情報システム、メディア科学の各コースのカリキュラムツリーを作成し、ガイダンスにて学生に説明している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムツリー (<a href="https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/">https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/</a>)</li> <li>・カリキュラムマップ (<a href="https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/">https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/</a>)</li> </ul>	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>2015年度からの新カリキュラムでは、卒業所要単位に、外国語科目 10 単位、教養科目 10 単位の履修が必要としており、情報科学の専門分野以外の幅広い教養を身につけることを求めている。教養科目群については一定の見直しをしており、2018年度は「技術者倫理」の担当者を決定し 2019年度から新規開講できることとなった。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学学則 情報科学部設置科目</li> </ul>	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育には、数理実験においてレポートの作成の基礎的な指導を行っており、問題のあるレポートを中心として教員による指導体制の強化を図っている。また、情報科学リテラシーにおいて、理系の専門分野の学習に備えた技術英文の読解の導入講義を行っている。数学・物理系の基礎科目においては高校の学習との連続性に配慮して講義内容を設定している。また、情報科学の導入的な基礎科目として、情報科学入門、コンピュータシステム入門 1/2、プログラミング入門を設置している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学学則 情報科学部設置科目</li> </ul>	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>卒業所要単位の外国語科目 10 単位に加え、英語での学会等の発表を想定したテクニカルプレゼンテーションを開講している。また、情報科学特講では英語論文を読むことを推奨し、その論文内容の発表会を開催している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学学則 情報科学部設置科目</li> </ul>	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>3年次にインターンシップを開講し、企業での夏及び春のインターンシップ参加を推奨している。資格取得に向けては、情報処理技術者試験の受験を推奨し、集中講義による教育を実践している。多くの企業で英語力の把握に使っている TOEIC を年 2 回学部で実施し、英語力の定着を目指している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学学則 情報科学部設置科目</li> </ul>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時に数学のプレースメントテストを実施し、習熟度による科目選択を指導している。</li> </ul>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>英語は入学時の TOEIC をプレースメントテストとして活用し、習熟度別クラスを編成している。</li> <li>学科を横断したコース制を導入し、身につける情報科学分野の知識体系をコースとして選択させている。</li> <li>基礎科目において学び直しの仕組みを導入するとともに、主要な科目において前提履修科目を設定している。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>数学プレースメントテスト及び入学時 TOEIC の成績資料</li> <li>カリキュラムツリー (<a href="https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/">https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/</a>)</li> <li>カリキュラムマップ (<a href="https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/">https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/</a>)</li> <li>履修ガイド</li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>※取り組み概要を記入。</b> 各科目において、授業時間外の学習時間が適切に確保できるよう課題を調整している。また、教員のオフィスアワーを GBC (Glass Box Office Hour Center) に集約し、学生アシスタント (SA) と共に、学習支援を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>GBC ホームページ <a href="https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/">https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/</a></li> <li>情報科学部時間割表</li> </ul>	
③学生の学習時間 (予習・復習) を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>※取り組み概要を記入。</b> 授業改善アンケートの結果を振り返り、各科目の授業外学習の時間の到達度を把握し、授業外学習の短い科目については、次年度以降に課題量を調整するなどの措置を行っている。また、GBC にて授業外学習の支援を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>GBC ホームページ <a href="https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/">https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/</a></li> </ul>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入 (取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報科学プロジェクトにより 1 年次秋学期から PBL 型の講義を実施している。早い段階から専門分野への興味を引き出すことで、基礎・専門科目の学習/理解の動機となることを目している。</li> <li>リクエストを参考に開講内容を設定する「リクエスト集中講義」科目があり、夏季休業、春期休業を中心に先端技術の知識を得る場として開講している。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報科学部ホームページ <a href="https://cis.hosei.ac.jp/">https://cis.hosei.ac.jp/</a></li> </ul>	
⑤それぞれの授業形態 (講義、語学、演習・実験等) に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>※どのような配慮が行われているかを記入。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義に関しては、学科・コース毎の必修・選択の違いや基礎科目であるか否かといった観点から受講者数を想定し、適正なクラス規模となるように必要に応じて複数のクラスを開講している。</li> <li>英語については少人数クラスを展開している。</li> <li>演習科目については、想定される見込み履修者から少人数クラスとなるようなクラス数を開講している。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報科学部時間割表</li> </ul>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度について教授会で意見交換している。また、重要科目については、学び直し制度や再履修クラスの設定を行い、適切なレベルでの単位認定が行われるようにしている。また、成績評価について執行部が学科やコースなどの属性毎の成績分布の違いを分析し、各教員の成績評価や講義のレベル設定の適切性の指標として教授会で情報提供を行っている。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・集計データは教授会での提示のみ（秘密情報のため学部内限り）	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組み概要を記入。 厳格な評価をスムーズに行うために、科目ごとの教員裁量による成績評価を集約したコース毎の成績を集計している。基礎科目群においては単位認定と成績評価を分離し、後続科目への必要性に応じた適切な評価を実現している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・集計データは教授会での提示のみ（秘密情報のため学部内限り）	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・教授会にて、随時、学生の就職状況・進学状況を報告している。また、2名の就職担当教員が1年ずつずらしながら二年間就職担当を受け持つことで、長期化する就職活動に対して適切に状況把握や指導を行うことができるようにしている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・第360回教授会議事録「就活状況」 ・第362回教授会議事録「就職状況」	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・GPAの分布、単位取得状況、授業への出席状況など、学生の詳細なデータで把握して分析し、教授会で情報共有している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・単位取得状況資料、授業出席率資料など ・第350回教授会議事録「2017年度進級・卒業者の確定数（確定）」	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 ・情報処理技術者試験の受験を推奨し、学修成果の測定に活用している。 ・カリキュラムにおいて分野の特徴的な特性毎にコース化されており、コース毎の学修状況（成績分布や単位取得状況）の分析を行っている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・集計データは教授会での提示のみ（秘密情報のため学部内限り）	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。 ・基礎科目群ではMastery Testsを実施している。必修科目の英語ではTOEICの受験を単に認定の前提条件とし、全学生のTOEICの成績を成果測定に利用している。学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格者数も指標としている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・TOEIC受検結果、学会発表一覧、等	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。 ・2015年度まで学部独自のポートフォリオシステムで学習目標と成果（プログラミング、TOEIC、GPAの分布）を提供してきた。2016年度以降、このシステムの中で利用の多い部分に特化したシステムに移行して、GPA、TOEICなどの情報を提供している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の進級判定にあたって、全体的な成績分布や単位取得状況の分析を行っている。</li> <li>・単位取得数が少ない学生とは、保護者を含めた面談を行い、状況の確認を行っている。</li> <li>・分析結果と面談の状況は教授会に報告し情報共有している。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振者向け保護者面談会の案内</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善アンケートの結果を、データで入手し、学部教授会内で共有し、分析を行っている。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第350回教授会議事録「2017年度授業改善アンケート情報開示請求」</li> </ul>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

情報科学部では、問題を解きながら学ぶ能動的な講義を多く配置し、数理実験のレポート作成指導強化により技術文作成力の向上を図るなど、学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されている。情報系学会標準に基づきカリキュラムを設計し、最新動向に対応した改訂を数年ごとに実施するとともに、3つのコースのカリキュラムツリーによりカリキュラムの順次性・体系性が明確にされている。情報リテラシ系で技術英文読解講義、数学・物理系で高校学習連続性に配慮した講義、情報科学導入で入門講義を設置するなど、初年次教育・高大接続に配慮されており高く評価できる。3年次にインターンシップ参加を推奨したり、情報処理技術者試験の受験を推奨して関連講義を配置するなど、社会的および職業的自立を図るためのキャリア教育が適切に提供されている。英語力向上のために、読み込んだ英語論文レビューを発表会形式で実施したり、年2回学部でTOEIC®を実施するなど、国際性を涵養するための施策に努めており評価できる。

②教育方法に関すること (1.2)

情報科学部では、プレースメントテスト結果に基づく科目選択の指導およびクラスを編成している。学科を横断したコース制を導入し、選択したコースにあった履修を指導している。また、主要科目において前提履修科目を配置しており、学生の履修指導が適切に行われている。オフィスアワーをGBC (Glass Box Office Hour Center) に集約し、教員と学生アシスタントが連携して学生の学習を支援するなど、学習指導が適切に行われていることは評価できる。授業外学習時間の短い科目について課題量を調整し、GBCの授業外学習の支援により学習時間を確保する方策が行われている。1年次にPBL型の講義を実施し、専門分野への興味を引き出していること、リクエスト集中講義を開講し先端技術の知識を得る場となっていることから、教育上の目的を達成するために、効果的な授業形態の導入に取り組んでおり評価できる。講義については学科・コース毎の特性の観点から受講者数を想定し、適正なクラス規模となるよう複数のクラスを開講している。また、英語科目や演習科目では少人数クラスを展開し、それぞれの授業形態に即して学生数が配慮されている。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3~1.5)

情報科学部では、コース毎の成績分布を講義レベルの指標とした分析結果を学び直しや再履修クラス編成に反映し、成績評価と単位認定の適切性の確認、および厳格な成績評価を行うための方策が行われており、評価できる。就職担当教員

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

が就職・進学状況を取りまとめ、教授会で報告・情報共有を行っている。GPA、単位取得、出席状況を分析し、結果を教授会で共有することにより、学生の成績分布、進級などの状況が学部単位で把握されている。コース毎の成績分布や単位取得状況から学習状況の分析を行っており、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標が適切に設定されている。これらはいずれも評価できる。基礎科目での Mastery Tests、英語科目での TOEIC®、学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格者数などにより学習成果を把握しており、具体的な学習成果を把握・評価するための取り組みとして評価できる。GPA、TOEIC®などの情報を学部独自のポートフォリオシステムで可視化されていることも評価できる。進級判定時の成績分布や単位取得状況の分析結果や単位取得数が少ない学生と保護者を含めた面談状況を教授会で共有しており、学習成果を定期的に検証していることは評価できる。授業改善アンケートの結果を教授会で共有・分析しており、授業改善アンケートが組織的に利用されている。

## 2 教員・教員組織

### 【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S  A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションが2年間で一巡する形式で実施している。
- ・全ての講義に対して、自由に授業参観を行うことができる。特に、複数教員が担当する同一講義の他クラスや講義の積み上げ方向の関連科目を中心に、講義方法や内容の共有を図っている。

【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・オープンセミナー（春学期の隔週金曜3限、教員の研究活動の発表）
- ・6科目で授業参観を行った。その中でも、一科目は演習科目でのアクティブラーニングの試行時に参観を実施し、複数教員の視点でアクティブラーニング実施上の課題の検討を行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学オープンセミナー <https://cis.hosei.ac.jp/gs/courses/special/>
- ・授業相互参観実施状況報告書

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S  A B

- ・外部資金獲得のための申請を複数教員の連携で行う取り組みを進めており、2018年度は学部内の複数教員及び学外研究者の連携により大型予算の申請を行った。
- ・教授会合意のもとで科研費インセンティブ予算を学部管理とし、学部生・院生が積極的に外部発表を行うように支援している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

### 【この基準の大学評価】

情報科学部では、全教員の研究テーマを公開・議論するオープンセミナーを教員・学生が交流する場として活用し、また授業参観、複数教員が担当する講義、積み上げ方向の関連科目は、講義方法や内容を共有しており、学部内のFD活動が適切に行なわれていることは評価できる。複数教員および外部研究者との連携による外部資金の申請や科研費インセンティブ予算の学部管理による学部生・院生の外部発表の支援強化への利用など、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

や資質向上を図るための方策が講じられていることは評価できる。

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	在学期間にわたる学修が適切に進行するように、学修状況の把握をすすめ、より適切な教育内容の提供及び学修指導體制の構築を目指す。	
	年度目標	出席と単位取得を中心に、学修指導に適切な学修状況の見直しを行う。	
	達成指標	適切な基準を策定して、教授会で合意を得る。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	出席については必修科目を中心として担当教員からの情報提供を元に学修状況の確認や面談対応を行った。 単位数については、年度当初の教授会で成績不振者対応の基準について議論し合意を得た。
		改善策	進級・卒業の状況を追跡調査して、成績不振者対応の基準単位数を継続的に見直す。
質保証委員会による点検・評価			
所見		ディプロマポリシーの達成レベルの明確化につながる点は評価できる。	
改善のための提言	学生の多様性を考慮すると多段階の達成レベルを想定すべきだと考えられる。そのため、まず、卒業時の達成度の調査が必要であろう。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	座学・実習・演習が中心となる情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。	
	年度目標	反転学習の仕組みを導入した講義実施形態の検討を進める。	
	達成指標	他大や他学部の実施状況を調査し、適用可能な形態の検討結果の情報を教授会メンバーで共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	反転学習などのアクティブラーニング事例の情報を収集し、教授会 Wiki に情報集約したページを作成した。また、40 名超の中規模クラスでのアクティブラーニングを伴う演習を試行した。
		改善策	継続的に事例を収集し、本学部の教育での本格実施の検討を進める。
質保証委員会による点検・評価			
所見		アクティブラーニングの実施に向けて着手したことは評価できる。	
改善のための提言	事例収集など今後の活動のためにも、カリキュラムにおいて、どのような学習活動がアクティブラーニングに適しているかなどの整理が有効であろう。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	多様な入試経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。	
	年度目標	科目群やコース科目などのカリキュラム上の区分に基づいた学修状況の分析を行う。	
	達成指標	学修状況の分析結果の情報を教授会メンバーで共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	学科やコース毎の GPA 分布を分析し、各学年毎に新入年度末と今年度末の平均・分散の推移について教授会で情報共有をした。
		改善策	GPA 分析を科目群やコース科目などの基準で詳細分析すると共に、年次推移を追うことで今後のカリキュラム改革に活用する。
質保証委員会による点検・評価			
所見		分析指標など、一定の範囲で明確化されたことは評価できる。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		改善のための提言	分析指標を学生支援に活用し、その結果を分析指標項目の追加・削除などの改善につなげるべきである。	
No		評価基準	学生の受け入れ	
4	年度末報告	中期目標	社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。	
		年度目標	入試経路毎の成績分析の追跡調査を行う。	
		達成指標	入試経路毎の分析結果の情報を教授会メンバーで共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	入試経路毎の GPA 分布の分析結果を教授会メンバーで情報共有した。学年毎の差はあるが、英語外部試験や公募推薦といった新しい入試チャンネルは概ね良好であることがわかった。	
		改善策	次年度以降も継続的に分析を行うとともに、今後の入試定員枠の設定や査定方針の決定に活用する。	
		質保証委員会による点検・評価		
年度末報告	所見	客観的な指標で入学経路の評価を行っている点は評価できる。		
	改善のための提言	GPA では分析しにくい学科やコースによる違いを分析できる指標を検討すべきである。		
No		評価基準	教員・教員組織	
5	年度末報告	中期目標	学部理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FD や教員間の協働を進める。	
		年度目標	学部教育の将来像の検討を進めながら、適切な教員の採用を行う。また、教育の最終段の強化に繋がる外部資金の獲得を目指し、複数教員の連携による申請を行う。	
		達成指標	複数教員連携での外部資金申請を一件以上行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	本学部の複数教員の連携により、JST 大型予算 1 件、科学研究費補助金 6 件の申請を行った。	
		改善策	継続的に教員連携による外部資金の申請を進める。	
		質保証委員会による点検・評価		
年度末報告	所見	携した申請を行っている点は評価できる。		
	改善のための提言	申請を採択につなげる施策を検討することが望まれる。		
No		評価基準	学生支援	
6	年度末報告	中期目標	大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。	
		年度目標	教員・職員・GBC の連携による、学修困難学生への情報把握・共有体制を確立する。	
		達成指標	教員・職員・GBC の連携による支援体制を策定して、教授会で合意を得る。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	GBC 主導で連携体制の検討を進め、執行部および教授会の合意を得た。	
		改善策	特になし	
		質保証委員会による点検・評価		
年度末報告	所見	学生支援の体制を確立したことは評価できる。		
	改善のための提言	新体制に沿った支援を実際に行い、体制を改善してゆくことが望まれる。		
No		評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。		
	年度目標	本学部の教員の専門分野における情報技術に関する解説や説明を広く公開する。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	達成指標	情報技術に関する解説を Web 等を通じて公開する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	本学部の取り組む研究分野について学生が紹介する、情報の技術分野への興味の誘導を目的とした短い映像コンテンツを作成し、Youtube により公開した。
	改善策	個別の技術分野の説明などのコンテンツを継続的に増やしていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新たな広報メディアを開拓したことは評価できる。
	改善のための提言	広報チャンネルごとにアクセス数、アクセス時期、利用者層などの分析を行い、効果的な広報につなげることが必要であろう。
【重点目標】		
<p>学生支援において、学修に困難をかかえる学生の支援体制の確立を最も重視している。</p> <p>GBC 長（本学部専任教員）と GBC 相談員（臨床心理士資格保有者）により素案を作成し、それを学部執行部及び事務主任との意見交換を通じて、実施可能かつ有効性が高いと思われる対応手順を策定する。</p>		
【年度目標達成状況総括】		
<p>学修状況の把握や支援の体制は、GBC の連携を含めて着実に進展している。これについては、学部としての支援体制は徐々に改善しているが、発達の偏りに関係が深いと思われるケースが増えてきている現状としては、キャンパス全体や大学としての体制の整備が必要である。そのため、小金井三学部長連名での支援体制の強化の依頼を行っている。</p> <p>教員連携による外部資金の申請や、情報技術の社会に向けての提供については、徐々に体制が作られてきており、この流れを着実なものとしていく。</p> <p>以上のことから、学部の全体的な状況としては年度目標を概ね達成し、改善が順調に進んでいると判断する。</p>		

【2018 年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>情報科学部では、出席や単位数に関する学習状況把握の見直しを行うという目標に対し、出席については必修科目担当教員からの情報提供により対応し、単位数については成績不振者対応の基準について議論し合意した。アクティブラーニングの教育方法の有効性を検討するという目標に対し、中規模クラスでのアクティブラーニングを試行した。また、カリキュラム区分に基づき学習状況を分析するという目標に対し、学科やコース毎に新入年度末と今年度末の GPS 推移を分析した。入試経路毎の成績分析を行うという目標に対し、GPA 分布分析から英語外部試験や公募推薦入試は概ね良好であることを把握した。これらはいずれも適切な取り組みが行われてたと評価できる。</p> <p>学部教育将来像に適切な教員の採用、および複数教員の連携による外部資金申請の目標に対し、JST 大型予算 1 件および科研費 6 件を申請したことは評価できるが教員・職員・GBC の連携による学習困難学生の共有体制を確立するという目標に対し、GBC 主導で学習困難学生支援を進めたことや、教員専門分野における情報技術の解説を公開するという目標に対し、研究分野を紹介する映像コンテンツを学生が作成し Youtube で公開したことは高く評価できる。</p>	
---	--

IV 2019 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	在学期間にわたる学修が適切に進行するように、学修状況の把握をすすめ、より適切な教育内容の提供及び学修指導体制の構築を目指す。
	年度目標	学生の出席状況の傾向の変化に対応するように、出席と単位取得等の現況を分析し、学修指導に適切な学修状況の見直しを行う。
	達成指標	出席状況は成績不振学生への面談対応において、対応すべきレベルの見直しを行い、その基準に従って学生や保護者への対応を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	座学・実習・演習が中心となる情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。
	年度目標	前年度の演習科目におけるアクティブラーニングの試行を元に、具体的な演習実施形態の検討を進める。
	達成指標	中規模の演習科目におけるアクティブラーニングの適切な実施方法を検討し実施する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	多様な入試経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。
	年度目標	科目群やコース科目などのカリキュラム上の区分に基づいた学修状況の分析を行う。
	達成指標	コース毎に特徴的な科目群に絞った成績分布の特徴など、コース化されたカリキュラムに対して効果の期待できそうな分析を複数の基準で実施し、教授会に結果を提供する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学生の受け入れ】
4	中期目標	社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。
	年度目標	入試経路毎の成績分析の追跡調査を行い、入試の実施レベルでの改革を行う。
	達成指標	学修上の困難が見られる推薦入試について改革を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教員・教員組織】
5	中期目標	学部の理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FDや教員間の協働を進める。
	年度目標	教育の最終段の強化に繋がる外部資金の獲得を目指し、継続的に複数教員の連携による申請を行う。
	達成指標	複数教員の連携による大型予算への申請を1件以上行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学生支援】
6	中期目標	大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。
	年度目標	入学してくる学生の様相の変化に適合するように、教員・職員・GBC相談員の連携による、学修困難学生への情報把握・共有体制を見直す。
	達成指標	年度の早い時期で支援体制を見直しを実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【社会連携・社会貢献】
7	中期目標	情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。
	年度目標	本学部の教員の専門分野における、個別の情報技術についての解説や説明を作成しWeb等を通じて公開する。
	達成指標	取りかかりとして、情報技術紹介コンテンツ作成の体制を確立し、技術紹介コンテンツを公開する。
<b>【重点目標】</b>		
カリキュラムの見直しを視野に入れて、学修成果の把握を重視する。特に、コース毎の特性にあった評価のための科目グループの把握やその区分に基づいた分析を行い、その結果を教授会に展開する。		

### 【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

出席と単位取得等の現況を分析し、学習指導に適切な学習状況の見直しを行うという目標は適切と判断する。加えて、学習状況の現況把握として出席や単位取得以外の指標（例えばレポート）も検討することを期待する。前年度のアクティブラーニングの試行を元に具体的な演習実施形態の検討を進めるという目標は適切と判断するが、実施形態を具体化する前にアクティブラーニングの有効性を分析することも期待したい。科目群やコース科目などのカリキュラム上の区分に基づいた学習状況の分析を行うという目標は適切と判断するものの、学習支援に向けてどのような分析を行うかについて、具体化することを期待する。入試経路毎の成績分析の追跡調査を行い、入試の実施レベルでの改革する目標は評価できるが、分析にあたっては、学部の特性に適したGPA以外の評価指標も検討していただきたい。外部資金の獲得を目指し、継続的に複数教員の連携による申請を行うという目標は評価できる。加えて、申請に留まらず、採択に向けた方策を具体化することも検討していただきたい。教員・職員・GBC相談員の連携による、学習困難学生への情報把握・共有体制を見直すという目標は、学習支援として高く評価する。教員の専門分野における個別の情報技術についての解説や説明を作成しWeb等を通じて公開するという目標も評価できる。

### 【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】

特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

**【大学評価総評】**

情報科学部では、情報系学会標準に基づきカリキュラムを設計し、最新動向に対応した改訂を数年ごとに実施している。3つに整理したコースのカリキュラムツリーを作成し、能力育成のため教育課程・教育内容が適切に提供され、かつ教育の順次性・体系性が確保されていることは評価できる。情報リテラシ系、数学・物理系、情報科学導入系科目において、初年次教育・高大接続がきめ細かく配慮されており高く評価できる。オフィスアワーを GBC に集約し、学生アシスタントと共に学習支援・指導、授業外学習の支援が適切に行われていることを極めて高く評価する。コース毎の成績分布を講義レベルの指標とし、学び直しや再履修クラス編成に反映しており、成績評価と単位認定の適切性、また厳格な成績評価を行う取り組みは評価できる。TOEIC®、学会表彰件数、情報処理技術者試験合格者数などの評価指標を学部独自のポートフォリオシステムで可視化し、学生に共有している。オープンセミナーを教員・学生が交流する場として活用、また授業参観、複数教員が担当する講義、積み上げ方向の関連科目は、講義方法や内容を共有しており、学部内の FD 活動が適切に行なわれている。また、科研費インセンティブ予算を学部が管理し、学生の外部発表の支援強化に利用しており、研究活動の活性化や資質向上を図るため取り組みとして評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。